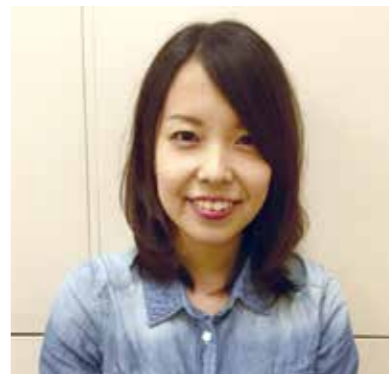


先輩に続け

日々前進!

大学院医歯薬学研究部口腔保健衛生学分野(歯学系)助教
土井 登紀子 (とゐときこ)



か月ほどしか経っておらず、ヒョコどころか、卵の殻も割り切れていない未熟な状態で、教育、研究に関して試行錯誤の日々が続いています。しかし、6年間学んだ環境で、ご指導いただいた先生方と共に働くことができるというのはとても有意義で、新しい発見の毎日を過ごしています。

私は、2008年に徳島大学歯学部口腔保健学科の2期生として入学し、2014年に口腔科学教育部口腔保健学専攻(修士課程)を修了後、歯科総合商社に勤務しました。その後、縁あって学生時代から所属していました口腔保健衛生学分野(日野出大輔教授)に助教として採用され、現在に至っております。教壇に立つと同時に、2015年4月より口腔保健学専攻(博士後期課程)の社会人大学院生としても学んでいます。この原稿を書いている今、教員として働きはじめてから10

私の主な仕事は、学科の学生に対する講義、実習のほか、毎週臨床に出て患者さんの治療に携わっています。さらに研究のテーマが「咀嚼の重要性に着眼した学校歯科保健」というフィールドワークのため、実際に小学校や高校に足を運び、歯科の立場から食育に関する授業や、ICT (Information and communication technology) システムを活用した

歯科健診を実施するなど、自分でも想像していた以上に忙しい日々を送っています。昔から要領が悪く、人一倍準備を必要としますが、周りの先生方に助けられな

がら社会人としても人間としても成長するべく、さまざまなことにチャレンジしているところです。

学生のみなさんへ

社会人2年目として走り出したばかりの私から偉そうなおことは言えませんが、目の前にあることから逃げず、何事にもとりあえず挑戦してみることが成長へとつながるのではないかと考えています。作家の林真理子さんの作品で「したことの後悔は日に日に小さくすることができる。していないことの後悔は、日に日に大きくなる」と記載されていたことを鮮明に覚えています。嫌だなと思う事でも、やってみたら意外と楽しかったり得意だったりするかもしれません。昔を振り返ってみても、辛かった経験が現在に活かしていることが多々あるはずですが、毎日こつこつ努力を重ねていけば、必ずチャンスはやってきます。

す。その好機を確実に掴み取るために、後悔しないようにするために、日々、努力を続けてほしいと思います。



小学校での"嚙ミング30"授業



口腔保健学科での基礎実習風景

徳大生 大活躍!

左から西上さん・船越さん・二宮さん



二宮さん(左)と舟越さん(右)

総合科学部 社会創生学科 3年
二宮 苑花 (にのみや そのか)
総合科学部 社会創生学科 1年
舟越 裕里江 (ふなこし ゆりえ)

棚田で田植え体験 ふるさとを知るきっかけに

かすりの着物にすぎがさと赤いたすきの早乙女姿で田植えを体験したのは、本年発足したばかりのサークル「ふるさと愛好会」の舟越さんと二宮さん。場所は日本の棚田百選にも登録されている阿南市上勝町生実の「榎原の棚田」。

参加のきっかけは、サークルを立ち上げた部長の西上広貴(にしかみひろき・工学部建設工学科4年)さんが、ボランティア活動を通じて知り合った、棚田の保全に取り組んでいるNPO法人「郷(ふるさと)の元気」(上勝町)が、田植えの体験者を募集していることを知り、部活で呼びかけたことか。

早乙女姿ということで男性の西上さんは裏方の世話係に。公募で一般の方も参加しました。

舟越さんは、「町おこしや地域の活動に興味があり、社会創生学科を選びました。将来は徳島のために何かできる仕事をしたいし、そのために学生時代にいろいろ学びたいです」と「ふるさと愛好会」にも入部しました。

「小学校の時に授業で、稲を育てる観察をしました。今回のように本格的な田植えは初めて



なので感動しました」と。一方、二宮さんは、「初めての早乙女衣装に、気持ちが引き締まりました。田んぼは思ったより柔らかい感触で、慣れようと気持ちよくなってきました(笑)。田植えの後は、地元の方のおいしいご飯をいただき、皆さんの気持ちが伝わってきてとてもほっこりしました。上勝の新緑の美しさと、地元の方々の温かさや笑顔に癒された幸せな1日でした。良い交流にもなりました。本当に感謝です。ありがとうございました。稲の成長も楽しみです」

西上部長は、「様々なボランティア活動に参加させてもらいましたが、今後はこちらからも何か発信していきたいようにがんばっていききたいです」と、今後の抱負を語ってくれました。